

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）	施策の柱	環境保護・保全活動
------	---------------------	------	-----------

●目指す姿

- 市民・事業者・行政が一体となり、環境保護・保全活動に取り組むための「情報発信」や「活動の実践」のための体制が整備されています。
- 次代を担う子どもたちに、環境保護・保全、生物多様性について学ぶ場が提供され、子どもを軸に家族が環境について考えるきっかけを持ち、それが実際の活動につながっています。

●事業の達成指標

項目名	前期計画策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R1年度末目標値	担当課	分析	今後の取組予定
(主) 日常生活において、環境問題を意識している市民の割合	78.4% (H26)	-	79.3%	-	72.0%		UP	環境政策課	市民意識調査において、快適な環境が維持されていると考える市民が多いことがうかがえ、そのため環境問題を意識する市民の割合がやや低下している。	市ウェブサイトこれまで以上に積極的に活用する。また、従来の広報紙やイベントでの啓発活動もさらに充実させる。
(客) 環境教室などへの参加者数（年間）	2,800人 (H25実績)	2,732人	2,965人	3,087人	3,081人		3,000人	環境政策課	従来の各種環境教室に加え、学校や事業所で出前講座を開催したことにより、目標を達成している。	さらに参加者数を増やすために、出前講座の充実や子ども環境教室の内容について見直しを行う。

●施策の方向性①環境保護・保全活動の推進

事業番号	31101	事業名	環境保護・保全推進事業	担当課	環境政策課	事業評価	概ね順調に進んでいる
事業概要	市民が身近にある環境や自然に目を向け、環境問題への認識を深めるための情報提供や、市民や事業所が主体的に環境保護・保全活動に取り組むことができるよう支援を行う。						
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】 環境美化活動の日を中心にボランティア団体への支援を行うとともに、イベントを利用した啓発活動を実施している。また環境美化監視員と連携して環境保護・保全に努めている。市民意識調査での環境保護・保全活動に対する市民の満足度も高く、快適な生活環境が維持されていると考える市民が多いと思われる反面、日常生活において環境問題を意識している市民の割合が若干低下してきている。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】 快適な生活環境を保つためには、市民に向けてよい分かりやすい情報提供やマナーの啓発を継続する必要がある。環境保護・保全が重要なことは70%以上の市民の方に理解されているが、さらなる行動を促すためのPRが必要である。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】 市民に対する情報提供やマナー啓発の充実のため、市ウェブサイトのトップページのトピックスに環境に関するイベント情報を掲載することや、見やすいページ作りに努めるなどその活用を図る。また、東海学院大学や河川環境楽園とともにイベントを行い、その内容を広報紙にも掲載することで啓発活動もさらに充実させる。</p>						

●施策の方向性②環境教育の充実

事業番号	31201	事業名	環境学習事業	担当課	環境政策課	事業評価	順調に進んでいる
事業概要	<p>環境保護・保全に対する意識の向上を図るため、次世代を担う子どもたちが、環境や自然の大切さを遊びや学習を通じて学ぶ機会を増やすなど、市民が環境について学べる場を充実させる。</p>						
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】  「親子環境教室」「こども環境教室」を実施し、800人以上の市民の方が参加され、親子で環境への理解を高めることができた。各教室は概ね参加希望者が募集定員を超過し抽選を行っているが、「こども環境教室」の中には、長時間におよぶ講座であることから、保護者の負担も大きくなるため敬遠され、募集定員に達しなかった教室もあった。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】  「こども環境教室」のうち、募集定員に達しなかった教室については内容を見直す必要がある。  また、「親子環境教室」「こども環境教室」などの環境教室だけでは参加者の増員が困難な状況となっているため、新たな事業を検討する必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】  募集定員に達しなかった教室については内容や開催する時間帯を変更するなどの見直しを行い、参加しやすいものとする。  また、環境について学習できる機会を増やすため、「親子環境教室」「こども環境教室」以外のメニューとして、出前講座などの充実を図る。</p>						

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）	施策の柱	循環型社会
------	---------------------	------	-------

●目指す姿

- リデュース・リユース・リサイクル（3R）をこころがけ、ごみを減らす暮らしを実践する循環型社会が実現されています。
- リユースやリサイクルできないごみが継続的・安定的に適正処理され、快適な市民生活が維持されています。

●事業の達成指標

項目名	前期計画策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R1年度末目標値	担当課	分析	今後の取組予定
（主）ごみを確実に分別し、排出している市民の割合	93.7% (H26)	-	93.9%	-	92.4%		UP	環境政策課	これまで行ってきた広報活動により、市民のごみ分別に対する意識は高い値で推移している。	ごみ出しガイドブックを、市民にとって、より使い勝手の良いものに改訂するほか、広報掲載や看板の配布など、充実した広報活動を継続する。
（客）リサイクル率（年間）	29.9% (H25実績)	30.2%	28.4%	27.6%	28.0%		30.0%	環境政策課	民間の資源ごみステーションの増加により、公的機関によるリサイクル率は低下傾向を示しているが、トータルのリサイクル率は上昇していると考えられる。	緑ごみの再資源化、資源回収実施団体への奨励金交付事業等の取り組みを継続する。
（客）一人一日当たりのごみ排出量（年間）	957g (H25実績)	960g	922g	897g	910g		890g以下	環境政策課	大型台風の影響による一時的なごみ排出量増加はあったものの、これまでの啓発活動により可燃ごみの排出量は減少傾向にある。	生ごみの水切りや食品ロス削減等、啓発活動を継続する。

●施策の方向性①循環型社会の形成

事業番号	32101	事業名	リサイクル・再資源化事業	担当課	環境政策課	事業評価	概ね順調に進んでいる
事業概要	廃棄物の減量と資源の有効活用を図るため、家庭等から排出される再生利用可能なごみの再資源化を推進する。						
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状（R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする）や数値、前年度比較等）、解決すべき事柄】                      廃棄物の減量と、資源の有効活用を図るため、以下の取り組みを実施し、リサイクル率の向上に努めている。                      ・緑ごみの再資源化                      ・資源回収を実施した団体へ実績に応じた奨励金の交付                      ・雑がみの回収を推進するため、広報紙や自治会回覧等による啓発</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】                      一人一日当たりのごみ排出量は、H25の前期計画策定時から大きく減少している。今後更にごみの排出量を抑制するために、啓発活動等取り組みを継続していく。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】                      生ごみの水切りや食品ロス削減等について、広報紙や市ウェブサイトへの掲載や各種イベント等で広く市民や事業者にも周知することで啓発活動を行い、ごみの減量とリサイクル率の向上を図る。</p>						

●施策の方向性②適正な廃棄物の処理

事業番号	32201	事業名	一般廃棄物収集運搬事業	担当課	環境政策課	事業評価		順調に進んでいる
事業概要	一般廃棄物の適正処理を図るため、家庭からごみステーションに出される可燃ごみ不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬する。							
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】            家庭から、ごみステーションに出される可燃ごみと不燃ごみを収集し、ごみ処理施設に運搬している。            分別ルールが守られていないごみについては、啓発のため回収せず、ごみステーションに残している。また、収集時間外に出される場合もあるが、可燃ごみについては衛生上の観点から、市職員がその日のうちに回収するよう努めている。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】            正しい分別のルールや、収集する曜日・時間等を周知し、啓発を行う必要がある。            外国人でごみ出しのルールが分からない方に対し、正しい情報提供を行う必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】            今後もルール違反品については、啓発のため回収せず、ごみステーションに残しておく。ごみの中身から排出者が判明した場合は、文書等で指導を行う。            「ごみ出しガイドブック」の配布や、市ウェブサイトへのガイドブックのPDF掲載により啓発する。令和2年度にガイドブックを改訂(※5年毎)するため、記載内容の追加修正や外国語版の作成など、市民にとってより分かりやすいものとする。</p>							

事業番号	32202	事業名	北清掃センター 施設維持補修事業	担当課	北清掃センター	事業評価		順調に進んでいる
事業概要	北清掃センターの適切な維持管理を図るため、必要なメンテナンスを行い、周辺の環境に配慮した施設の維持管理に万全を期する。 法等に基づいた適切な維持管理により、施設の安定操業・安全を確保する。							
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】            ごみ焼却施設を適切に維持管理するために、法令に基づく点検管理と保守運営を図り、長期にわたり安定して操業できるよう計画的な機器類の修繕を行っている。            また、焼却施設の寿命は20年程度とされており、平成15年3月の稼動から16年が経過したため、老朽化による設備の故障や不具合が大幅に増えていくことが予想される。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】            基幹的設備の改良工事が必要な時期に近づいており、当該施設の延命化を図るために、更新が必要な設備の選定と事業費及び工事期間の把握を行うなど事業計画を立てる必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】            基本設計及び長寿命化計画を令和2年3月末までに策定し、計画的に基幹的改良事業を進めていく。また、多大な事業費に係る市の負担分を軽減するため環境省補助を活用するための事務を遺漏なく行う。</p>							

○総合計画－達成指標分析シート

基本目標	豊かな自然と調和する共生のまち（環境）	施策の柱	生活環境
------	---------------------	------	------

●目指す姿

- 地球温暖化に対し、市民、事業者、行政が一体となり、日々の生活や事業活動において、温室効果ガスの削減に向けて取り組んでいます。
- 本市唯一の水道水源である地下水が安定的に確保され、水質も保全されています。
- 生活排水による河川などへの汚濁負荷が軽減され、快適で衛生的な生活環境が保たれています。
- 特定外来生物が駆除され、地域の生態系が保たれています。

●事業の達成指標

項目名	前期計画 策定時	H27	H28	H29	H30	R1	R1年度末 目標値	担当課	分析	今後の取組予定
（主）家庭でできるCO2削減に積極的に取り組んでいる市民の割合	67.5% (H26)	-	68.2%	-	67.2%		UP	環境政策課	広報紙やイベントによる温暖化対策の啓発には一定の効果が見られたが、当初ほどその効果が見られにくくなってきたことから、数値はほぼ横ばいとなっている。	地球温暖化防止に関する啓発活動を継続的に実施するとともに、新たな啓発イベントを開催する。
（客）汚水衛生処理率（年間）	84.4% (H25末)	87.7%	89.2%	89.8%	90.8%		91.1%	環境政策課	公共下水道の整備や補助金などによる合併浄化槽の普及により、生活排水の適正処理が進んでいる。	合併浄化槽への切り替えを促進するための啓発や補助を実施していく。

●施策の方向性①地球温暖化防止対策の推進

事業番号	33101	事業名	地球温暖化防止推進事業	担当課	環境政策課	事業評価	概ね順調に進んでいる
事業概要	地球温暖化は、異常気象の増加など市民生活に悪影響を及ぼしていると言われる。本市では、平成29年度に「第3次各務原市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、市民・事業所が、この計画に基づいた温室効果ガスの削減に取り組むため、意識啓発を行っていく。						
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状（R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする）や数値、前年度比較等）、解決すべき事柄】                      広報紙等への啓発記事の掲載、親子環境教室やこども環境教室、産業・農業祭等のイベントでの啓発チラシ配布に加え、平成30年度より新たにJAFとの共催で「タイヤチェックイベント」を開催し、地球温暖化防止を啓発した。近年の異常気象からも地球温暖化が進行しているものと考えられるため、今後も市民・事業者・行政が一丸となりCO2など温室効果ガスのより一層の削減に取り組む必要がある。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】                      節電やエコドライブなど市民一人ひとりが実行しやすい取り組みを継続的に啓発していく必要がある。そのためには出前講座などのメニューの充実や、市民に対するPRのための新たな啓発イベントの開催について検討する必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】                      「第3次地球温暖化対策地域推進計画」に基づき、地球温暖化防止に関する啓発活動を継続的に実施していく。また、出前講座を充実させるとともに、東海学院大学や河川環境楽園とともにイベントを行いその内容を広報紙にも掲載することで啓発活動もさらに充実させる。</p>						

●施策の方向性②地下水の保全・管理

事業番号	33201	事業名	地下水保全事業	担当課	環境政策課	事業評価			順調に進んでいる
事業概要	本市の地下水は、水道水をはじめ、工業用水などで利用されている。その貴重な資源である地下水を保全するため、水位と水質の監視を行う。								
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】            地下水の水質について97箇所(市観測井7箇所、民有井90箇所)で測定し、硝酸態窒素汚染区域が拡大していないことを確認するとともに、水位についても127箇所(市観測井7箇所、民有井120箇所)において、年1～2回(渇水期・放水期)の測定を実施しており、硝酸態窒素の濃度が低下しているなど、問題は起こっていない。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】            硝酸態窒素汚染の防止はニンジン生産農家の協力のもと、過剰な施肥を抑制するとともに、長期にわたる経過観察を実施する必要がある。将来の地下水水源・水質確保が損なわれることを防ぐため、汚染が広がらないよう広域的に監視する必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】            地下水の水質と水位の測定を定期的実施し、いち早く地下水の異常を発見し、データによる根拠をもって適切な対応ができるように観測していく。</p>								

●施策の方向性③生活排水対策の推進

事業番号	33301	事業名	水質汚濁防止推進事業	担当課	環境政策課	事業評価			順調に進んでいる
事業概要	生活系排水による河川の水質汚濁を防止し、生活環境の保全を図るために、浄化槽の設置費用の一部を補助し、浄化槽の設置整備を推進する。7年以内に下水道の整備予定のない区域を補助対象として、既存住宅の排水水質改善を目指すもの。								
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】            下水道の整備に伴い、合併浄化槽補助対象区域が減少し、補助件数は減少傾向となっている。            ※補助件数の推移            H29年度 65件(うち単独浄化槽撤去 7件)            H30年度 52件(うち単独浄化槽撤去 5件)            R1年度 28件(うち単独浄化槽撤去 1件):R1.6月末現在            平成27年度から単独浄化槽撤去費用の一部補助を行い、合併浄化槽への切り替えの促進に努めている。            補助金の活用などにより合併浄化槽が普及し、生活排水の適正処理は進んでいると考えられる。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】            単独浄化槽からの切り替えを促し合併浄化槽の普及を図ることで、河川の水質汚濁を効果的に防止する必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】            広報紙による補助制度のPRを、単独浄化槽からの切り替えを促す内容も盛り込みながら行っていく。</p>								

事業番号	33302	事業名	し尿処理施設維持補修事業	担当課	クリーンセンター	事業評価			順調に進んでいる
事業概要	老朽化した施設を維持し安定的に稼働させるため効率的な維持補修を行う。								
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】 建設後29年が経過し、老朽化した施設を安定的に稼働させるために計画的に維持補修を行っているほか、職員の点検等によって老朽箇所の早期発見・修繕に努めている。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】 クリーンセンター基幹的設備改良工事に伴い設備・機器の大幅な更新となり、今後それに合わせた中長期の修繕計画を立てる必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】 クリーンセンター基幹的設備改修工事の完了(令和2年度)までに、今後の中長期の修繕計画を立てる。</p>								

事業番号	33303	事業名	し尿処理施設改修事業	担当課	クリーンセンター	事業評価			順調に進んでいる
事業概要	老朽化した施設について、処理体系の見直しを含め、効率的な改修を実施する。								
現状・課題・対策	<p>【事業の現状・問題…現状((R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする)や数値、前年度比較等)、解決すべき事柄】 平成30年10月よりクリーンセンター基幹的設備改良工事に着手し、令和2年度完成に向け工事を実施している。</p> <p>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】 本工事は現施設を稼働しながら行うことから、し尿・浄化槽汚泥の搬入継続に十分に配慮する必要がある。</p> <p>【対策…そのための具体的な行動内容】 し尿・浄化槽汚泥の搬入に支障が無いよう、設備の更新・配管の切替等について工事工程を施工業者と十分に協議し、安定的な施設稼働を確保しながら工事を実施していく。</p>								

●施策の方向性④特定外来生物の駆除と生物多様性の保全

事業番号	33401	事業名	特定外来生物対策事業	担当課	環境政策課	事業評価			順調に進んでいる
事業概要	<p>特定外来生物による被害を防止するため、市民や関係機関と連携し、生息地域の拡大防止や駆除を実施する。特に、アルゼンチンアリについては、一斉防除等を実施し、アリの個体数の減少と生息範囲の拡大防止を図る。</p>								
現状・課題・対策	<p><b>【事業の現状・問題…現状（R1.6月末時点の状況が記載できる場合は直近とする）や数値、前年度比較等）、解決すべき事柄】</b>                  特定外来生物で、不快害虫であるアルゼンチンアリの防除を平成24年度から継続して実施している。防除は、清流の国ぎふ森林・環境基金事業補助金の活用や、国立環境研究所の指導・助言を受けるなどしながら実施している。平成30年度は、鵜沼東部地区及び緑苑北地区において防除を実施した。鵜沼東部地区内ではモデル地区を設定し、効果的な防除の方法を検討するための重点防除を実施して、個体数が減少した。緑苑北地区ではH30.5以降アルゼンチンアリの生息は確認されていない。また、新たに鵜沼大安寺地区でも生息が確認されたため、根絶に向けて防除していく必要がある。</p> <p><b>【課題…問題を解決するためにどのようなことが必要なのか】</b>                  防除範囲の広い鵜沼東部地区では、アルゼンチンアリの個体数の減少を図ることはできたが、生息範囲は少しずつ拡大している。生息範囲の縮退を図るため効果的な防除方法の検討が必要である。</p> <p><b>【対策…そのための具体的な行動内容】</b>                  鵜沼東部地区においては、生息区域拡大防止のために、自治会、木曽川上流河川事務所などの関係者と引き続き連携し防除に取り組む。鵜沼東部地区で実施しているモデル事業の成果を検証し、国立環境研究所の指導を受けながら、より効果的な防除方法を検討していく。</p>								